

園総合 2022 年度 自己評価シート《結果》

A；園経営に対する評価

目標	ポイント目標	努力指標 (保育士の側の目標)	今年度の取り組み、問題点 次年度に向けての改善策	評価 (◎○▲)
様々なことに心を動かし、人間味のある乳幼児の育成	<p>■自己肯定感を高くみ自分に自信をもつ乳幼児を育てる</p> <p>■多様な感情を体験し、心豊かな乳幼児を育てるために、様々な人や自然と触れ合う</p> <p>■体を十分に動かして遊ぶ中で、心を揺さぶられ深く感動したり探求心を出せるようする</p> <p>■人との関係を築く力をつけるために、あいさつや自分のことは自分でする力を育てる</p>	安心して自分を出し保育士との信頼感をもてるようにする	<p>●安心して子どもたちが生活できるように、子どもと保育士の信頼関係を築けるよう配慮した。</p> <p>●一人ひとりの子どもに寄り添い、気持ちを受け入れてもらうことで、萎縮せずにのびのび過ごせるように心がけた。</p> <p>●次年度子どもに寄り添って、子どもが安心できるほいくをしていきたい。</p>	○
		一人一人のよさを言葉に表す	<p>●子どもひとり一人が肯定感を高められるようにその子の良いところを誉め、言葉にして伝えることで自信にもつなげていきたい。</p> <p>●子ども同士でお互いの良さを認めあえるよう保育士が言葉で子どもと子どもの心をつなげていけるように関わっていきたい。</p>	◎
		道徳性やきまりの必要性に気付く、守るという気持ちの芽生えを培う	<p>●園外保育に出る際に、公共の場での社会的ルールを伝え、守ることで、社会の一員として育っていく事の大切さをその都度子どもたちに理解できるように丁寧に伝えてきた。</p> <p>●決められたルールを守れたことや、友だちとの約束などを守れたことをたくさん褒めて、守ることの大事さやその気持ちを育ててきた。</p> <p>●社会的に良いこと悪いことなどが分かるように、体験を重ねる中で育ち合っていけるよう今後も丁寧に関わっていきたい。</p>	◎
		さまざまな遊びが豊かに展開する保育環境や保育教材等を整える	<p>●興味や関心、好奇心や探求心を持って、遊びや生活の中で友達と遊びや生活の中でいろいろなことに楽しみながら関わられるように配慮した。今後も豊かな遊びが保障できるよう、配慮していきたい。</p>	◎
		小学校の児童・教職員との交流や連携活動を計画的に実施する	<p>●今年度もコロナ禍ということで、色々な行事を多人数で開催して交流することは難しかった。しかし、開催方法を吟味し計画的に、少しでも同じクラスの保護者同士が交流持てるように戸外を利用しりして感染対策をしながら、検討して行うことができた。今後もその時の状況に応じて検討していきたい。</p>	○
		四季の変化に気付く保育教材の工夫を行う	<p>●園庭や園外散歩の際に草花などで遊んだり、昆虫やバッタや蝶々など季節ごとに変わる自然に出会い触れたりする中で、四季の移り変わりを楽しむことができた。また、草花や木々の葉の色の変化なども季節によって変わっていく事を学ぶことができた。木の実を拾ったり、四季折々の樹々の果実を木登りを楽しみながら採り、食したりして、クッキングをしたり四季の変化を感じられるよう配慮した。</p> <p>●花びらで色水遊び等も楽しんだ。</p>	◎
		日本の伝統文化に触れる機会を意図的・計画的につくり伝えていく	<p>●日本に古くから伝わる伝統行事を取り入れ、子ども達が古くからの文化に触れる機会を多く計画した。</p> <p>●子どもの安全面に配慮し、餅つきなどの古くからの文化伝承も大切にしながら、危険回避の検討をし(餅⇒窒息の危険等)、伝えていけるようにしていきたい。</p>	◎

栽培活動を行うなかで植物の生育過程を知る	<ul style="list-style-type: none"> ●幼児クラスの子どもたちが、季節に応じて野菜の苗を畑に植え、成長を楽しみ育てた。乳児クラスの子どもたちも収穫の加わったりして、野菜の成長を観察した。野菜を植えたあとの畑の草取りを、子どもと共に職員も協力しながら行った。 ●防草シートなども利用し、時間のある職員が協力するなどして畑の管理をしていきたい。 	◎
栽培物を収穫してクッキング保育を実施する	<ul style="list-style-type: none"> ●収穫するたび、子どもと料理方法を相談し、すぐにクッキングを行うことで、自分たちが育てたものを新鮮なうちに食べる嬉しさを感じていた。今後も保育の中でクッキングを実施していきたい。 ●感染対策の為に手洗いをしっかりと、マスク、手袋着用で行った。 ●手袋して包丁を使用すると、野菜が切りづらいなどがあったので、指を切らないよう細心の配慮が必要だった。 	◎
解放感や様々な気持ちを味わえるように思い切り体を動かす活動を取り入れる	<ul style="list-style-type: none"> ●子ども一人一人が自分のやりたいことに向かって、意欲的に心と身体を十分に動かして活動できるように配慮した。 ●今後も子どもの心に寄り添いながら、活動的に遊ぶことの苦手な子へもの声がけや配慮をし、気持ちよく活動できるようにしていく。 	◎
近隣の公園を利用し、地域との交流や関わりを深める中で、公共の物を利用するときの社会的ルールなどを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ●園外保育の時などに近所の方に出会ったら、保育士が元気に挨拶をし行動で見せ、子ども達もそれを学び、社会的ルールを身につけられるように声掛けや体験を多くできるように心掛けた。また、地域の方々との交流を楽しめるように関わった。 ●コロナ禍であった為、公園などの利用にも気を使い、感染対策を心掛けてきたが、今後も継続していきたい。 	◎
基本的な生活習慣の確立（自分で生活に必要なことをする）	<ul style="list-style-type: none"> ●園での生活の中で支援、援助をしながら、自分でできることが増えてくるように園での生活の中で支援、援助をしながら丁寧に声を掛けたり、見守ったりと配慮した。 ●子どもの生活リズムの乱れなどを改善してもらえるように各家庭にお願いしてきたが、なかなか改善できない家庭も複数あった。 ●家庭との連携を取りながら、子どもの生活習慣が身につくよう、また、生活リズムが改善できるように今後も丁寧に関わっていきたい。 	○
園児一人一人と元気にあいさつを交わしたり、園児が友達や様々な人にあいさつしている姿を認める	<ul style="list-style-type: none"> ●登園時に子どもひとりひとりに明るく声をかけ、子ども自身も挨拶を返したり、子ども同士であいさつし合ったりする姿を認め、誉めてきた。また、子どもからの返事の声のトーンや態度などから、その日の子どもの健康観察を行い、子どもの体調や気持ちなどの様子を見て関わった。 ●同じ時刻に数人の園児の登園が重なると、丁寧に受け入れることが難しいときもあった。 ●今後も元気に挨拶することを心掛け、楽しい一日の始まり、終わりとなるようにしていきたい。 	○

地域に愛され、保護者に信頼される保育園	■開かれた保育園づくりをめざし、保護者との連携を図る	園だよりや保護者会を通して保育園への理解を図る	<ul style="list-style-type: none"> ●クラス懇談会や、園だよりやクラスだよりの発行を通して、子ども達の姿を伝えてきた。 ●コロナ禍の為、保護者や園行事を縮小しての開催を余儀なくされたため、保護者との連携が例年より難しかったが、出来る限り工夫して行うことで少しでも理解を深めてもらえるようにつとめた。 	○
		懇談の充実を図り、乳幼児期の保育について情報発信をする	<ul style="list-style-type: none"> ●懇談会などは感染症対策として人数を制限して同じ内容で2回に分けて少人数ずつ行い、多くの方が安心して参加できるように心がけ、保育の情報発信を行った。今後も感染対策をしたうえで行っていきたい。 ●クラスによっては個人面談などで丁寧に関われる場を設け情報発信をした。今後も感染対策をしたうえで行っていきたい。 ●懇談会に参加できなかった保護者にもおたよりなどでも情報発信した。 ●乳幼児期の子どもの発達を理解し得られるように今後も保護者との交流を可能な限り深めていきたい。 	○
		園だよりやクラスだより、生活記録表で、降園時など、園児の生活している姿や成長の姿、保育の意図などを伝える	<ul style="list-style-type: none"> ●毎日常生活記録表を記入することで、保護者に園での生活の様子や、成長した姿を伝えてきた。園だよりやクラスだよりでも、他の友だちとの関わりや成長した姿などを丁寧に伝えてきた。しかし、クラスによってはなかなかクラスだよりを発行できず、保育側の思いや子どもの様子などを伝えるのがうまくいかなかったクラスもある。今後も丁寧に伝えられるように職員みんなにも声掛けをし、お便りなどを記入する時間を確保するなど心がけていきたい。 	◎
		クラスだよりの月1回以上の発行と知らせたい内容の吟味をする	<ul style="list-style-type: none"> ●隔週で各年齢児ごとの会議を行い、その中でおたよりに載せたいことや、子どもの成長について話し合った。子どもの様子がよくわかるよう、写真なども多く掲載した。1クラス、なかなかクラスだよりが発行できないクラスがあった。クラスだよりに掲載する内容など、吟味する機会を設けても、書く時間が確保できないこともあった。なるべく全クラスが毎月発行していけるようにしたい。 	○
		降園時や面談等を利用し、積極的に保護者に話しかけ、保護者が気軽に話しかけられるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍である為、懇談会はあまり多人数で行うことや、長時間行うことができないので、個人面談を多く行ったクラスがあった。懇談会に参加できなかったお家のみ懇談会をおこなったクラスもあった。どちらも行ったクラスもある反面どちらも行わないクラスが1クラスありった。なるべく全クラスがどちらかを開催し保護者とのコミュニケーションが深まるようにしていきたい。 ●登降園時に保護者に短時間でも声をかけ、園での子どもの様子を伝えるようにしてきた。 	◎
		保護者の保育参加の機会をつくる	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍ではあるが、感染対策をしたうえで保育参加を行った。例年は保護者と昼食も一緒に食べて、午睡なども一緒に行ったが、昨年同様今年もコロナ感染防止の為、昼食は無しで、時間も1日ではなく半日ずつにした。 ●保育参加期間中に参加できなかった保護者は、改めて都合の良い日に参加できる機会を設けた。今後も継続していきたい。 	◎

		<p>保護者が参加できる保育参観の機会を設け、活動内容を工夫する</p>	<p>●年3回の保育参観について、開催方法を職員全員で検討し、感染対策をしながら少人数ずつクラス毎に行った。今後も臨機応変に対応し、中止ではなく、その時の状況に応じて工夫して行ってきたい。</p> <p>●こどもまつりには年長クラスの保護者を招待し子どもと一緒にお店屋さんごっこに参加して盛り上げてもらった。</p>	◎
		<p>安全で清潔な環境をつくる</p>	<p>●感染症対策として、こどもたちの登園前に園全体の床の消毒、降園後の各部屋の掃除とドアのノブや手で触れる部分の消毒、乳児室のおもちゃの消毒、貸し出し図書の消毒を行い、清潔に保つことを心掛けた。</p> <p>●保育室の床はオスバン消毒、トイレの床や嘔吐の後は次亜塩素酸消毒、ドアのノブはアルコール消毒、おもちゃは消毒の機械に入れる等、用途に応じて消毒薬を変えて使用した。今後も清潔に保ってきたい。</p>	◎
		<p>月1回の遊具の点検や安全点検をする</p>	<p>●月に数回遊具の安全点検を定期的に行った。</p> <p>また、破損箇所などを見つけたら。その都度修理を行ってきた。今後も同様に怪我を未然に防ぐため破損箇所などに気を付けていきたい。</p>	◎
		<p>乳幼児の姿から援助について学びあう</p>	<p>●研修などに参加し乳幼児の姿を学び、お互いに学んだことを伝え合った。目の前の子どもの成長発達にあわせて、必要な援助を行えるように今後も学んだことを情報交換し共有していきたい。</p> <p>●職員みんなの学びとなるよう、研修などで学んだことを伝え合い共有してきた。今後も学びを伝え合い、学び合い、子どもの発達に応じた援助ができるようにしていきたい。</p>	◎
<p>資質向上を目指し、意欲的に経営に参画する保育士の育成</p>	<p>■乳幼児の姿を見取り、確かな成長を支える保育士の資質向上</p> <p>■職員の連携とチーム保育の充実</p>	<p>週日案を活用し乳幼児の姿を記録し自分の保育の省察をする</p>	<p>●週案を活用し保育を振り返ることで、今後の保育を見据える手立てとしていけるようにした。今後も一人ひとりの子どもの姿を振り返り丁寧にとらえ、次の保育へ生かせるように活用していきたい。</p>	○
		<p>乳幼児の実態を見直し保育計画の作成を進める</p>	<p>●保育計画の作成に当たり、目の前の子どもの姿を見つめ、発達の見通しをもって計画を立てられるようにした。</p> <p>●今後も目の前にいる子どもの姿を的確にとらえ、しっかりと子どもの発達を学ぶことで、見通しを持って関わり、保育計画をたてていきたい。</p>	○
		<p>クラス会議(部会)などで乳幼児の保育の方向性を話しあう機会を月に2回以上もつ</p>	<p>●子どもひとりひとりの発達や家庭の様子をとらえ振り返り、担任全員で共有し方向性を話し合う機会をクラス毎に行えるよう設定した。しかし、コロナ禍で濃厚接触者となり休む職員が複数出たりしたため、会議ができない時もあった。今後も手立ての必要な子や、家庭生活で心配のある子などの育ちや今後の関わり方等を、クラス会議で話し合い、共有し合っていきたい。</p>	◎
		<p>クラス担当チームで乳幼児を見守る意識をもつ</p>	<p>●複数なので各担任それぞれの見方や子どもとの関わり方で感じた子どもの成長について、情報交換をし、共通認識の下で見守っていけるように各クラスごとに会議を設定している。今後もクラス担任みんなで一人ひとりの子の成長、発達を見守けるように努力していきたい。</p>	◎

B ; 保育目標の達成、クラス経営に対する評価

項 目		状況・評価・反省
<p>目標</p> <p>保育の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇元気で生き生きとした子ども ◇自分の要求をしっかりとち、主張できる子ども ◇身の回りの事が自分でできる子ども ◇豊かな感性と表現力をもった子ども ◇仲間と過ごすことを喜び、仲間のことを考える子ども 		<p>●元気がいっぱい寒い日も暑い日も戸外で伸び伸びと遊び、活動的に生活できている子どもが多かった。</p> <p>●園児一人ひとりに丁寧に寄り添い、気持ちを受け止める中で、担任や友だちに自分の意志をしっかりと伝えられる子どもが増えた。また、友だちと対等に遊んだり、自分より幼い子に優しく接したり、困っている子に思いやりの言葉をかけたりと、成長発達と共に、相手の気持ちを受け入れたりできる子どもも増え、仲間との関係性が広がり深くなってきた。</p> <p>●保育士が毎日の生活の中で行っている行動を見ることにより憧れを持ち、園児たちも自分たちでやってみたい気持ちが芽生え、乳児クラスでも自分の靴を履いてみたり、片付けたり、脱いだ服を片付けたりと、真似をしてやっていた。</p> <p>●乳児クラスの子も、自分で身の回りの事をできる子どもが多くなった。しかし、なかには何度も丁寧に声をかけても、声をかけたその時だけで、身の回りの片付け等の習慣をなかなか獲得するのが難しい子どももいた。自分の片付けなどが苦手な子どもには、できたことを褒めることで「またやろう!」という気持ちや意欲を高め、段々と習慣化して身につくように配慮した。</p> <p>●今後も丁寧に声をかけつつ、身の回りのことを園児たちが発達に応じて身につけることができるように配慮し援助などを行っていきたい。</p> <p>●美味しいものを美味しいと感じ、美しいものを美しいと感じ、嬉しいことを嬉しいと感じ、喜び、楽しんだり笑ったり、泣いたり怒ったりと、感情豊かに表現できるよう自然の中で五感を研ぎ澄まし、触ったり、嗅いだり、見たり、食べたり、と、豊かな時間を過ごせるよう心掛けてきた。</p> <p>●丁寧な言葉かけや絵本や紙芝居の読み聞かせの中で、言葉を豊かに発したり、豊かに表現し、リズムや歌などで自由に身体を動かして表現したりできた。</p> <p>●今後も感情豊かに成長することができるよう、配慮していきたい。</p> <p>●毎日の生活の中で仲間と一緒に過ごせることを喜び楽しみ合い、自分のことだけでなく友だちのことも思いやれるように、毎日の生活の中で子どもの気持ちを大切にしながら関わってきた。友だちのことが大好きで一緒に過ごせることを喜び、楽しんでいる子どもが多かった。今後も自己肯定感を大切にしながら、自分も友だちも同じように大切に、大好きと思えるよう丁寧に関わっていきたい。</p>
<p>保育の重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇生命の保持 ◇情緒の安定 ◇人間関係 ◇表現 ◇健康 ◇環境 ◇言葉 ◇食育 		<p>●各クラスで今、大切にしたいことなどを担任同士で共有し、一人ひとりの子どもに丁寧に関わるよう配慮してきた。そのような関わりの中で、一人ひとりの子どもが意欲的に活動できるように今後も配慮していきたい。</p> <p>●食育の中で、自分たちが栽培し収穫して調理をするという経験は、食材を知るうえで大切なことなので、今後も大事にしていきたい。また、鯉つかみ体験でさっきまで泳いでいた鯉を自分たちで掴みどりし、目の前で裁いてもらい、自分たちも包丁を持ち切り身にして、給食室で調理してもらい食する体験は、大切な命を頂く貴重な学びとなった。</p>
<p>環境の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇健康支援 ◇環境衛生管理 ◇保護者・地域への支援 ◇安全対策 ◇事故防止 		<p>●コロナ禍のため感染防止の為に消毒や手洗いを徹底した。コロナ禍以前に5人で使用していた机も台数を増やして2人で使用にした。また、机と机の間を空けたり、空気の流れを考慮し、クラスのドアを開けて食べたり、廊下で食べたり、天気の良い日には庭で食べたりし、感染対策をしながらも、子ども達が食事をするを楽しんだり感じられるように配慮した。</p> <p>●危険と感じた破損箇所や、遊具の不備、その他危険と思われる物や箇所はすぐに直したり処分したりした。</p> <p>●定期的に遊具の安全点検を行った。</p> <p>●安全に子ども達が過ごせるように見守りながらも、子どもの成長発達の為に、必要な経験ができるように配慮した。</p> <p>●コロナ禍で地域で孤立した子育て中の母たちに、声をかけ園に遊びに来ていただくことで、子育ての悩みなどの相談や支援ができるようにした。</p>

	問題点・検討点・改善点
伝統行事	<ul style="list-style-type: none"> ●職員で伝統行事についての伝承のについて検討し感染対策をしっかりとしたうえで、子どもたちが体験できるように考え進めた。日本古来の伝統行事を子ども達に伝承していく事はとても大切なことなので、今後も感染対策をしたうえで、子どもたちに伝える可能な方法を職員みんなで検討し合っていきたい。
食育	<ul style="list-style-type: none"> ●クッキング保育も体験させていきたいので、消毒やマスク、ビニール手袋を着用するなどして、コロナ禍ではあるが細心の感染対策の配慮をしながら行った。子ども達にとっては、とても大事な経験となるので、今後も対策をしながら楽しくクッキングを行っていきたい。 ●畑に野菜の種を植えて、育てて収穫し、それを自分たちで調理して食す体験を、年間を通して行った。
誕生会	<ul style="list-style-type: none"> ●誕生会は子どもたちがとても楽しみにしている行事であるので、みんなが喜んで食べられるようにアレルギーの子へも配慮しながらメニューを工夫した。毎月の誕生会メニューがマンネリ化しないように、給食の職員だけではなく全職員で会議を持ちアイデア出し合い考えてきた。今後も子どもたちの喜ぶ誕生会メニューを考えていきたい。
避難訓練	<ul style="list-style-type: none"> ●毎月の訓練を重ねることにより、子ども達は放送の音に敏感に反応して聞き耳を立てていた。そして、落ち着いて素早く非難行動に移っていた。 ●担任が人数確認後の報告の際、出席の子の人数と休みの子の人数だけでなく、見落としを防ぐためにも、休みの子の名前の報告を忘れないようにしていきたい。 ●職員は自分の避難時の担当を忘れずに、担当職務の行動もとれるようにする。
安全指導・安全点検	<ul style="list-style-type: none"> ●安全に子どもたちが過ごすことができるように遊具の点検を定期的に行った。 ●散歩中の安全な歩き方や、道路の渡り方など、園外に出る際は常に伝えていく。ふざけて道へ飛び出してしまう子へは、真剣に命の大切さを伝えていく必要があるため、職員も厳しい表情で対応した。危険な十字路などでも、職員の制止の声に耳を傾けずふざけたり飛び出してしまう子が、年々多くなっている感じがする。命を守るうえで大事なことなので、しっかり伝えられるよう、今後も対応を考えていきたい。
遠足	<ul style="list-style-type: none"> ●親子遠足はクラスごとに集合場所を変え、行き先も変えて設定し、親子で歩いて目的地までいく遠足とした。道中、歩きながら保護者同士で会話し交流を深めている様子が見られた。今後も歩いて出かけたリバスで出かけたリ、その時の状況に応じて親子みんなが楽しめるものを計画していきたい。 ●春夏秋冬に1回ずつ子どもと職員のみで出かける「こども遠足」を行い、園から歩いて行けるけれどもいつもの散歩よりちょっと遠い所へ、子ども達が楽しめるように計画した。乳児クラスでも戸外で昼食を食べられる経験ができるようにし、子ども達の笑顔がたくさんみられとても良かった。今後も子ども達が喜ぶような計画を立てていきたい。
水遊び・夏季プール	<ul style="list-style-type: none"> ●大型の設営プールは、監視役を確実に2人配置するのが難しいため行わず、代わりにホースを利用したシャワーを作って遊んだり、スプリンクラーやバケツ、ペットボトル、ブルーシートなどを利用して水遊びをしたり、水かけ追いかけっこをしたりして水で遊ぶ体験をたくさんできるように工夫した。ブルーシートを築山に敷いて水を運んで作った、ウォーター滑り台や、机を滑り台に組み立ててホースで水を流してウォーター滑り台を楽しむ姿も見られた。今後も、夏ならではの遊びをたくさん考え、充実した遊びが展開していけるように工夫していきたい。
飼育栽培	<ul style="list-style-type: none"> ●散歩先で捕まえてきたザリガニやドジョウ、メダカやバッタなどの飼育をするにあたり、本を見て学び行ったが、死んでしまう事も多々あった。それでも自分たちの捕まえてきた生き物ということもありきちんと世話をして大切に育てようとする姿が見られた。生き物を飼育する中で、命の大切さと世話をすることの大事さと難しさを学ぶことが出来た。 ●春から夏にかけて畑に野菜の苗を植え、水をあげ草むしりをし大切に育て、収穫の喜びを体験した。幼児クラスの子どもたちだけでは大変な除草などは、職員みんなで協力し園児と一緒に野菜の生育を見守った。野菜を栽培したことで、野菜の成長に興味をもち、その後のクッキング保育へと繋がる中で、野菜の苦手な子も少しずつ食べられるようになった子がいた。今後も飼育や栽培などの体験を多くとり入れていきたい。
幼保小・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ●幼保小の地域との連携の研修がコロナ禍ではあるが少しずつ行われた。 ●感染防止ということで、同地域の小学校へ訪問しての園児と小学生の交流は残念ながら行われなかった。3月になり小学校への入学直前で各学校と電話にて連絡を取り合い、連携を行った。また、数校の学校の先生には直接来園していただき、連携を行った。子ども達が学校生活で不安にならないように、コロナ禍以前のように学校へ遊びに行き交流し、安心して入学できるようにしてあげたかった。今後、コロナ感染が落ち着いたら、以前のように交流し連携を深めていきたい。
園内研修	<ul style="list-style-type: none"> ●ZOOMのシステムなどを多く活用し、職員全員で研修に参加することができた。ZOOM研修で全職員が共通の学びをすることができて良かった。また、録画したものなどを職員会議の際に活用し学び合った。今後も職員みんなで、子ども達を中心に据えて保育していけるように、学び続けていきたい。

懇談会、面談	<ul style="list-style-type: none"> ●クラス懇談会はクラスの人数を半分に分け、同じ内容で2回ずつ行い、保護者には都合のつく方に参加していただいた。どちらも都合が悪く参加できなかった保護者には、後日面談日を設けた。また、懇談会で話し合った内容を分かりやすくまとめ欠席した保護者にも伝わるように工夫した。同時に欠席した保護者には面談も行った。また、クラスによっては全保護者を対象に懇談会と面談の両方を行い、保護者との交流を深めた。0歳児クラスは懇談会と兼ねて発達を診てくれる講師の先生を招いて学習会も行った。
読み聞かせ	<ul style="list-style-type: none"> ●年間を通して0才児から年長児まで読み聞かせを大切に行ってきた。子どもの発達にあわせた内容のものを選んだり、子どもの希望のものに応じたり、そこから受け取る子どもの表情や育ち、お話の世界に入り込む想像の世界を大切にしたい。 ●4・5歳児クラスでは発達がゆっくりな子や大人数の中では集中して聞くことのできない子には、その子に合わせて聞ける内容のものを違う場所で丁寧に対応して、お話の世界を楽しめるように配慮した。 ●お話の読み聞かせの際にはクラスのみんなが集まるので、コロナ感染の対策として、換気に気を付けて行った。読み聞かせは、子どもの育ちの中でとても大事なものであるため、これからも大切に丁寧に行っていきたい。
職員会議など	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ感染の心配もある中なので、全職員が一堂に集まっていた職員会議は控え、少人数に分かれたグループ討議を多く行い、それをまとめたものを職員みんなの共通認識にできるようにした。 ●全職員で行うときには、広いホールでマイクを使用し、大きな声を出して飛沫が出るのを防いだ。また、ひとりが使用するたびにマイクの消毒も行った。 ●会議では、ベテランばかりが発言するのではなく、若い人たちも発言がしやすいように工夫した。また、みんなとは違う意見も大切に、検討を行った。今後もみんなが発言しやすい会議運営を行っていきたい。
施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> ●築年数が経過したことで、修理の必要がある所などが少しずつ出てきた。職員みんなで、職員会議の日の午後などに時間を取り、縁側や廊下の水道周り、げた箱などを塗装し、施設の保護に当たった。今後も施設を大切にしていきたい。 ●設計士さんに修繕計画をたててもらい、それを参考にして少しずつ修繕をし施設を長く大切に保っていきたい。また、修繕の際に使いにくい所などは、使いやすくなるような案を提案し、直していけるようにしたい。
連休中、当番・園庭開放 ・本貸し出し等	<ul style="list-style-type: none"> ●連休中の園内の見回り・金魚の餌あげ・草木の水まき・郵便物を取り込むなどを職員が交代制で順番に当番として行った。 ●園庭開放は子育て支援の一環として行った。また、各クラスのお楽しみ会や卒園生の同窓会の際にも園庭開放を行った。 ●絵本の貸し出しについては、子育て支援の親子に関しても返却のつど『クリーントイ』という滅菌庫で消毒を行った。 ●園庭開放については、地域の子育て支援拠点として、決められた日に決められた時間内で5組までとし、コロナウィルスが感染拡大しないように、対策をとったうえで行った。 ●今後も感染対策をしながら、園庭開放や絵本の貸し出しなどを、在園の子も在園外の地域の子も支援していきたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナ禍なので行事など一つ一つ職員みんなで行い方を検討して、感染対策を行ったうえで開催とした。保育のうえでも、友だちとの関わりが多数数になってしまう行事の中では、感染対策はしていてももしも罹患して発症していないだけの子が感染源になってひろまらないかと心配だった。しかし、子どもの成長発達のうえでは、友だちとの関わり合いが大切なことなので、今後も感染対策の検討をしつつ、前向きに考え子どもの成長発達に大切なことは行っていきたい。

「子どもを尊重する保育」のために

人権擁護のためのセルフチェックリストにて全職種の職員全員が、自分の保育の振り返り・子どもとの関わり方の振り返りを行った。

- ① 子どもひとり一人の人格を尊重しない関わり
- ② 物事を強要するような関わりや、脅迫的な言葉かけ
- ③ 罰を与えたり、乱暴なかかわり
- ④ 差別的なかかわり

以上のチェック項目の中でどの職員も子どもに寄り添い良いかかわりが多かった。